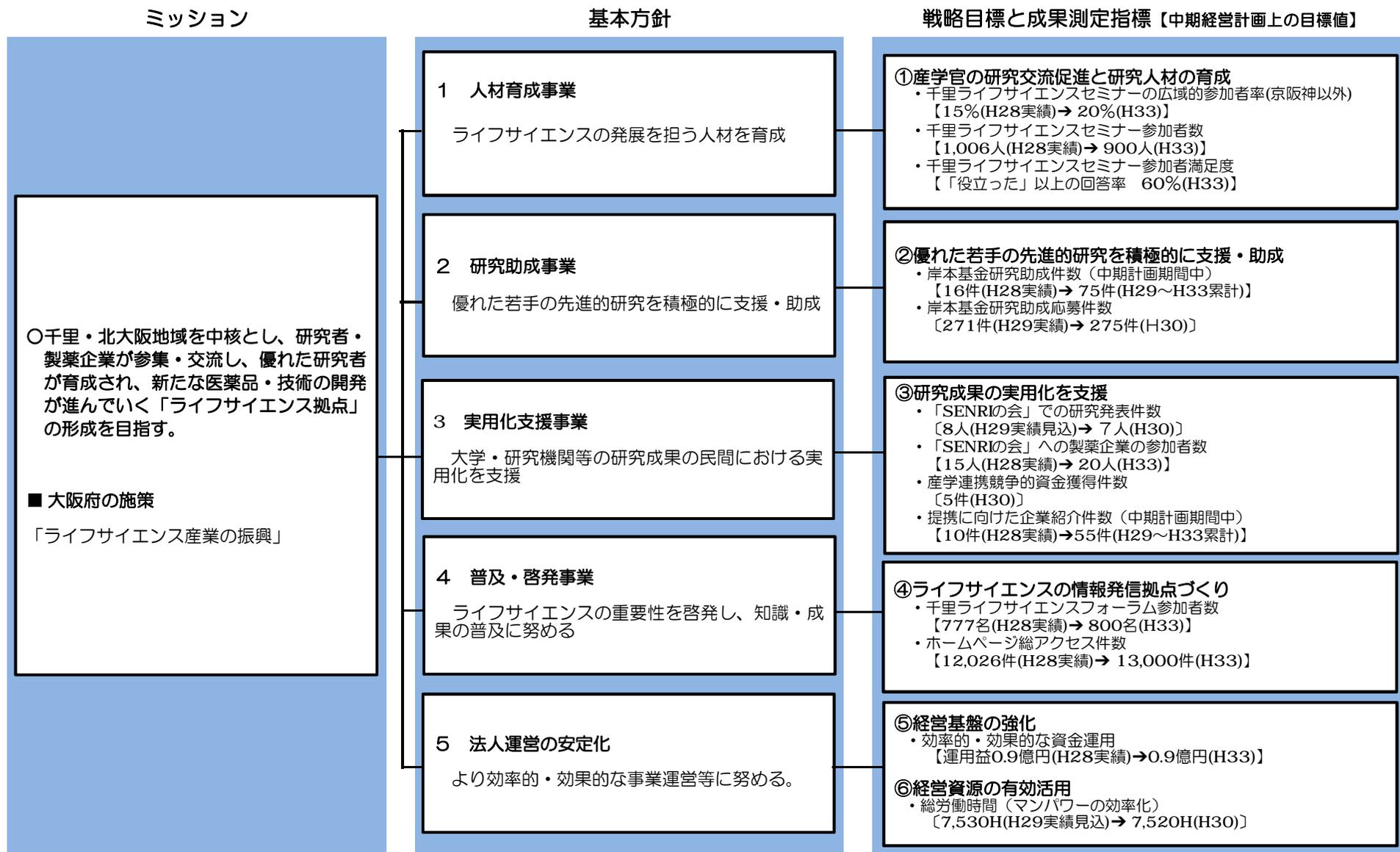


法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
作成（所管課）	商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課

○ 経営目標設定の考え方



○ H29年度の経営目標達成状況及びH30年度目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)											
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (H29)	H28実績	H29目標	H30目標	ウエイト (H30)	中期経営計画 (H29～H33)		H30目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
						実績(見込)			H30目標	最終年度目標	
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	セミナーの広域的参加者率 (京阪神以外からの参加者数/全参加者数)		%	25	-	15	↓20	25	-	20	中期経営計画のH33目標値 ・旬のテーマを厳選し、全国の第一線の研究者を招聘した魅力あるセミナーを実施することにより、京阪神以外の広域的参加者について20%の安定的参加者率を確保する。
						21					
	セミナーの参加者数	人	5	(1,006)	900	900	5	900	900		
					×846						
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										具体的活動事項	
最重要とする理由、 経営上の位置付け	<p>○財団は設立当初より、ライフサイエンス分野の発展を担う創造性・独創性豊かな産・学・官の研究人材の育成・質的向上を支援する事業を特に重要な事業だと考えている。</p> <p>○前計画(H24～H28)の実績を見ても千里ライフサイエンスセミナーや新適塾の参加者満足度調査とも一定の評価が確立してきた。そこで千里の地から全国への情報発信を狙いとし、旬のテーマを選び全国の第一線の研究者を招いているセミナーの広域的参加者率(京阪神以外)を最重要目標としたい。</p> <p>○この場での触発を通じ、新たなイノベーションを生み出す若手研究人材の裾野を広げていくことこそが、財団の設立精神である「知の交流拠点」を実現したものであることから、産学官の研究交流促進と研究人材の育成を、引き続き最重要目標と位置づけた。</p>										
最重要目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○企画委員会で各委員(アカデミア・企業の21名)から旬のテーマ提案を募り、協議の上、毎年5テーマを選定し、これらのテーマに関する日本を代表する研究者をコーディネーター候補に選定。当該コーディネーターに、発表者選定を委任する運営を確立し、魅力あるセミナーの企画を行っている。</p> <p>○今後も、積極的な広報活動や、新鮮でエキサイティングなテーマ設定、当日の意見交換の場を確保するなどにより、参加者及び満足度の安定的な確保を図るとともに、全国的なライフサイエンスの拠点として広く認知され、より幅広い人材の交流がなされるよう、取り組んでいきたいと考えている。</p>										
活動方針	<p>○事業の企画等を検討する企画委員会において、上記を踏まえた十分な検討を行いテーマ設定や講師選定を行う。</p>										
	<p>○セミナーの個別テーマについては、企画委員会で十分協議し、各テーマとコーディネーターを具体的に選抜。</p> <p>○北海道から九州まで各大学、研究機関の第一線研究者から選抜し、全国からの参加者を募っている。また、若手研究者からの発表も可能となるよう、発表時間(短時間)も工夫している。</p> <p>○京阪神以外のPRについては、関係する学会誌・業界専門誌及び各ホームページなどへの無料掲載等により周知・広報に努めている。</p>										

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト(H29)	H28実績	H29目標	H30目標	ウエイト(H30)	中期経営計画(H29~H33)		H30目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項	
						実績(見込)			H30目標	最終年度目標			
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	セミナー参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/全回答 (「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」 +「役に立たなかった」)		%	10	-	50	↓ 80	10	-	60	H29実績を踏まえつつ、CS調査初年度のみ結果である点を考慮して目標値を設定	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、魅力あるテーマ、講師の選定を進める。	
						87							
② 優れた若手の先端的研究を積極的に支援・助成	岸本基金研究助成件数(中期計画期間中)		件	5	16	15	15	5	15	累計75	中期経営計画のH30目標値 ・寄付額30,000千円/1人当たり助成額2,000千円	応募件数の増大に伴い、審査員の負担軽減を図りつつ厳正な審査を行い、採択レベルの向上を図る。	
	岸本基金研究助成応募件数	件	5	243	250	271							275
③ 研究成果の実用化を支援	「SENRIの会」での研究発表件数		件	5	7	7	↓ 7	10	7	7	中期経営計画のH30目標値 ・奨励研究助成の受賞者15名の約半数を目標に設定	前年度の受賞者だけでなく、過去の発表者にも積極的に発表を働きかけ、産学連携の機会とする。	
	「SENRIの会」への製薬企業の参加者数	人	5	(15)	16	22							↓ 20
	競争的資金獲得件数		件	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-
	産学連携競争的資金獲得件数	☆	件	-	-	-	-	5	5	-	-	日本医療研究開発機構(AMED)、科学技術振興機構(JST)等の競争的資金獲得・活用に向けた高い目標達成を目指す。	AMED、JST等の競争的資金公募情報を提供するとともに、獲得に向けて研究者やベンチャー企業等をサポートする。
	提携に向けた企業紹介件数(中期計画期間中)		件	10	10	11	11	-	-	-	累計55	-	-
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム参加者数		人	5	777	800	↓ 800	5	-	800	中期経営計画の到達目標からH30目標値を設定(参加者数の維持)	引き続き新規のクラブ会員拡大を図るとともに新車で魅力的な講演テーマ、講師の設定を行い、積極的に参加募集を行う。	
	総ページアクセス件数(月平均)	件	5	(12,026)	12,000	12,200							5
						× 11,846							

法人名	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団
-----	----------------------

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウェイト(H29)	H28実績	H29目標	H30目標	ウェイト(H30)	中期経営計画(H29~H33)		H30目標設定の考え方(数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						実績(見込)			H30目標	最終年度目標		
⑤ 経営基盤の強化	効率的・効果的な資金運用		億円	10	0.9	0.9 1	↓0.9	10	0.9	0.9	中期経営計画のH30目標値 ・長期安定を基本に効率的・効果的な資金運用に努め、毎年約0.9億円の運用益の確保を目指す。	資産運用規程に基づき、長期的な観点からのより効率的・効果的な資金運用を行う。
⑥ 経営資源の有効活用	総労働時間(マンパワーの効率化)		時間	5	7,634	7,630 7,530	7,520	5	-	-	前年度実績を踏まえ設定 ・事務事業の一層の効率化を図り総労働時間のさらなる縮減を目指す。	事務事業の一層の効率化等を行い、常勤職員(役員・管理職、コーディネータ、製薬企業出向者を除く)の総労働時間数の縮減をめざす。

【凡例】

- ・☆はH30からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・()は当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

CS調査の実施概要

○ 平成29年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
セミナー参加者満足度	アンケート調査	セミナー参加者	846	年5回開催

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組	平成30年度にめざす状態
セミナー開催時に、参加者に対しセミナー内容に関するCS調査を行った結果、「大いに役立った」+「役立った」が87%（（「大いに役立った」+「役立った」）/全回答（「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」））であった。	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、引き続き魅力ある旬のテーマ、講師の選定を進め、参加者の今後に役立つセミナーを維持していく。	中期経営計画（H29～H33）により、H29から新規に設定した目標であり、安定的なセミナー参加者の満足度（「役に立った」以上）を確保する。

○ 平成30年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
セミナー参加者満足度	アンケート調査	セミナー参加者	900	年5回開催

・CSに関する平成30年度目標（再掲）【※ 戦略目標の場合】

戦略目標	成果測定指標	単位	H28実績	H29目標	H30目標値	CS調査の数値を戦略目標に設定した理由及び目標値の根拠
				実績（見込）		
産学官の研究交流促進と研究人材の育成	セミナー参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/ 全回答（「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」）	%	—	50	80	（設定した理由） セミナーは、当法人の設立目的を実現していく上で重要な事業であり、その「広域的参加者率」を最重点目標としているが、参加者数だけでなく、参加者がセミナーの内容に満足したかどうか、即ち、「大いに役立った」「役立った」と感じてこそ、研究の交流や研究人材の育成といった効果が生まれるものである。そのため、引き続き「大いに役立った」「役立った」を具体的な満足度の指標とする。
				87		（何をめざすのか） 高い満足度を安定的に確保していく。
						（目標値の根拠） 初年度（H29）の結果を踏まえ、引き続き、高い満足度を安定的に確保できるよう、一般的に高い水準と考えられる80%以上を目標とする。

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

29年度の 成果測定指標	単位	29年度の目標値	29年度の実績値 (見込)
セミナーの参加者数	人	900	846

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・過去5年の平均参加申込人数 1,230名、平均参加率 73.6%と比較したところ、H29は参加申込人数 1,178名、参加率 71.6%と共に平均を下回った。 ・各年の参加者の概ね半数以上が産業界からの参加であり、テーマや発表内容が産業界として関心の高い回では、一定の参加者数を確保できたが、基礎研究等、学生や研究者の関心が高い回では、参加者が少なかったことが要因と考えられる。
-----------	---

今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、第一線の専門家研究者を講師に招き、先端的な研究をテーマに最新の研究成果・動向等を紹介・発表することにより、より魅力的なセミナーとしていくとともに、参加者が少ない学生・研究者へのPRを特に積極的に行い、参加者数の安定的確保に努める。 ・そのため、H30年度から大阪大学医学系研究科院生の単位認定講座として位置付け、開催案内を大学を通じて行うこととした。
---------	--

〔2〕

29年度の 成果測定指標	単位	29年度の目標値	29年度の実績値 (見込)
総ページアクセス件数 (月平均)	件	12,000	11,846

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・29年度実績は、目標値より僅かに下回った（154件/月、△1.3%）。これはセミナーの動画配信へのアクセス件数が前年度より約3割減少したことが要因の一つであった。
-----------	--

今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナーの動画配信には講師との著作権の調整が不可欠であり、そのため配信に時間がかかったり、配信自体が許可されない場合がある。 ・今後はセミナー開催後、より速やかに動画配信できるよう、講師との調整に努めるとともに、他のコンテンツについても時宜にかなった最新情報の発信に努め、ホームページのより一層の充実にも努める。
---------	--

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

（※大阪府から成果測定指標の変更を提示した場合は除く）

〔1〕

●変更前（H29廃止）

	単位	29年度の目標値
競争的資金獲得件数	件	5

●変更後（H30新規）

30年度の 成果測定指標	単位	30年度の目標値
産学連携競争的資金獲得件数	件	5

成果測定指標の変更（廃止）を
希望する理由

・これまでの競争的資金獲得に向けた支援は、中小企業等に対する府の地域創造ファンド事業を中心に実施してきたが、H29年度に同事業が終了するため、「競争的資金獲得件数」の指標は廃止する。

・引き続き、財団が有する専門知見を研究成果の実用化に活用するため、H30年度からは、アカデミアに対する日本医療研究開発機構、科学技術振興機構等の競争的資金獲得・活用に向けた指標へ変更する。

〔2〕

●変更前

29年度の 成果測定指標	単位	29年度の目標値
提携に向けた企業紹介件数	件	11

●変更後

30年度の 成果測定指標	単位	30年度の目標値
—	—	—

成果測定指標の変更（廃止）を
希望する理由

コーディネーターの退職に伴い、後任の採用を試みたが見つからなかったことから、体制が整わず大阪府受託事業に応募できなかったため。

■ H29年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
セミナーの広域的参加者率	%	21	20

マイナス（現状維持）目標の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・H29から新規に目標としたものであり、結果的にH29は平均21%と目標値15%を上回ったが、個々のセミナーでは13%～28%と大きく差があり、セミナーのテーマによって参加者率が大きく変動する。 ・こうした不透明要素があることから、当面は中期経営計画の最終年度目標値である20%を安定的に確保していくこととしたい。
------------------	--

〔2〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
セミナー参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/ 全回答（「大いに役立った」+「役立った」+「ふつう」+「役に立たなかった」）	%	87	80

マイナス（現状維持）目標の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・H29から新規に目標としたものであり、結果的にH29は平均87%と目標値50%を大きく上回った。 ・前年度実績は踏まえつつ、1年のみの実績値のため、目標値は一般的に高い水準と考えられる80%以上とした。 ・H31以降は2年度分の実績を踏まえて、再検討することとしたい。
------------------	---

■ H29年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
岸本基金研究助成件数	件	15	15

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>・本助成事業の財源は寄付金30,000千円であり、1人当たり助成額2,000千円を踏まえ、15件（中期経営計画のH30目標値）とした。</p>
------------------	--

〔4〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
「SENRIの会」での研究発表件数	件	8	7

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>・前年度岸本基金研究助成の受賞者に対し発表を働きかけ、その半数について発表いただくことを目標値としており、H29の発表はH28受賞者（16名）の半数となった。</p> <p>・毎年度の寄付により助成事業を行っているため、原則は15名の受賞者となるため、引き続き、中期経営計画の目標値どおり7件以上の発表件数を確保したい。（前年度受賞者の発表が半数に満たない場合は、過去の受賞者にも発表を働きかける。）</p>
------------------	--

■ H29年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔5〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
「SENRIの会」への製薬企業の参加者数	人	22	20

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>・H29から新規に目標値としたものであり、結果的にH29は同一企業からの複数人参加も多く、22人と目標値を上回った。</p> <p>・テーマや実施時期により、年度間のバラつきがあるため、平均値をベースに目標値を設定することとし、H25～H29の5年平均である18.6人を上回る20人をH30の目標値として、引き続き企業からの参加者数の維持を図りたい。</p> <p>※過去実績</p> <p>H25 参加製薬企業数：10社、参加者数：19人</p> <p>H26 参加製薬企業数：9社、参加者数：16人</p> <p>H27 参加製薬企業数：13社、参加者数：21人</p> <p>H28 参加製薬企業数：8社、参加者数：15人</p> <p>H29 参加製薬企業数：13社、参加者数：22人</p>
------------------	--

〔6〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
千里ライフサイエンスフォーラム参加者数	人	816	800

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>・千里ライフサイエンスクラブ会員の高齢化による会員数の漸減に伴い、H28年度で参加者が800人を割り込んだため、中期経営計画において800人への回復をめざすこととした。</p> <p>・引き続き、テーマ・講師の工夫により新規会員の獲得、参加者の増加を図り、参加者800人の維持、確保に努める。</p>
------------------	---

■ H29年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔7〕

成果測定指標	単位	29年度の実績値 (見込)	30年度の目標値
効率的・効果的な資金運用	億円	1	0.9

マイナス（現状維持）目標の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・財団は長期安定的な運営が可能となるよう、元本保証の為替変動型仕組債を資金運用で活用している。 ・この仕組債は円と米ドル、豪ドルとの為替水準により変動し、H29年度は変動幅が小さく、安定的な運用が可能となった稀な年であった。 ・H30年度は米中の経済摩擦や朝鮮半島情勢で為替相場が大きく変動していることから、中期的にさらなる運用収入増を見込むのは困難であり、中期経営計画どおりの目標値とした。
------------------	--